

## シャルロット・ペリアンと日本

2012年1月21日(土)～3月11日(日)

### 日本文化を愛しデザインの新潮流をつくった一人のフランス人女性 建築家・デザイナーの軌跡

20世紀の住宅インテリア設備やデザインに革新をもたらしたフランスの女性建築家・デザイナー、シャルロット・ペリアン(1903～1999年)は、1940年の初来日以降もたびたび日本を訪れ、日本の文化にヒントを得たデザインを残しました。展覧会では、戦前戦後を通じて日本のデザイン界に多大な影響を与えたペリアンと彼女が経験した日本との関係に注目し、ペリアンの仕事の意義を探るとともに、日常と深く関わるデザインについて考える機会とします。

### ル・コルビュジエ、坂倉準三との出会い、そして日本へ

シャルロット・ペリアンは、1927年のサロン・ドートンヌに出品した「屋根裏のバー」が認められ、ル・コルビュジエのアトリエに入所しました。そこでル・コルビュジエとピエール・ジャンヌレとともに、鉄、アルミニウム、ガラスといった新素材を用いて制作した「住宅のインテリア設備」で、新時代の家のあり方を提言しました。

1940年、かつてル・コルビュジエのアトリエで同僚だった坂倉準三の推薦により、商工省の「工芸指導顧問」として初来日し、海外向けの工芸品の改良・指導を任せられたペリアンは、柳宗理とともに日本全国をまわり、仙台の工芸指導所では若い研究員たちに、素材の扱いやデザインなど、ヨーロッパにおけるモダン・デザインの実践方法を示しました。

また、日本滞在中のペリアンは、「民藝」運動の推進者である柳宗悦や河井寛次郎らとも交流します。「民藝」の理念に共鳴したペリアンは、地方に残る伝統的な意匠や技術を同時代の感覚で再生しようと試みました。1941年の「ペリアン女史日本創作品展覧会 2601年住宅内部装備への一示唆(通称「選擇 傳統 創造」展)」で発表した《竹製シェーズ・ロング》はその一つです。

また、彼女が提案した竹や木を素材とした合理的かつ現代的なデザインは、当時の日本のデザイン界に強く深い示唆を与えました。それは戦後のデザインの領域で鮮明な流れを作り出し、今なおたえず更新されながら脈々と生きています。

1953年、再び日本を訪れたペリアンは、55年に東京で「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」を開催。文楽から着想した椅子《オンブル(影)》や違い棚をヒントにした書架《ニュアージュ(雲)》など、戦前の日本体験をデザインに生かした数々の名作を生み出し、高い評価を得ています。

### 貴重な資料・写真、作品によりペリアンと日本文化の共鳴をたどる

5つの章で構成される本展では、家具、インテリアに関する図面、写真資料の他、ペリアンが撮影した写真、日本の友人と交わした書簡など約500点を紹介します。ペリアンと日本人との間に生まれた感性の共鳴とその波及をたどる本展は、21世紀の建築やデザインのあり方を考える機会となるでしょう。



シャルロット・ペリアン、銚子海岸にて、1954年  
Photo: Jacques Martin



シャルロット・ペリアン  
《竹製シェーズ・ロング》  
1941年/1985年再制作、Cassina



「芸術の総合への提案—ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」高島屋会場、東京 1955年

## 開催概要

- 【会期】 2012年1月21日(土)~3月11日(日)
- 【開館時間】 午前10時-午後5時 ※入場は閉館30分前まで
- 【休館日】 月曜日
- 【観覧料】 一般1,000(800)円、大学生700(600)円、高校生500(400)円  
 ※( )内は前売りおよび30人以上の団体料金  
 ※中学生以下、および65歳以上は無料
- 【主催】 広島市現代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 【後援】 フランス大使館、日仏工業技術会、日仏美術学会、日本建築学会、  
 日本建築家協会、日本インテリア学会、広島県、広島日仏協会、  
 広島市教育委員会、広島エフエム放送、尾道エフエム放送
- 【特別協力】 Archives Charlotte Perriand, Paris
- 【協力】 エールフランス航空、CASSINA EXC. Ltd., CASSINA



シャルロット・ペリアン  
 《オンプル(影)》1954年  
 Photo: Shizuka Suzuki

## 作家略歴

### シャルロット・ペリアン

- 1903年 パリに生まれる
- 1927年 「屋根裏のバー」が認められ、ル・コルビュジエのアトリエに入所(～1937年)
- 1940年 日本の輸出工芸のアドバイザーとして商工省の招聘により来日(～1946年)
- 1941年 「ペリアン女史 日本創作品展覧会 2601年住宅内部装備への一示唆」(「選擇 傳統 創造」展)を開催(東京と大阪の高島屋)
- 1999年 パリにて逝去

## 展覧会構成

- 第1章：日本との出会い 1929-1940  
 ル・コルビュジエのアトリエ入所から、坂倉準三、前川國男ら日本人建築家との出会い、そして来日に至るまでの経緯を紹介します。
- 第2章：日本発見 1940-1946  
 柳宗理とともに日本各地をまわり、また柳宗悦、河井寛次郎など日本美術界との交流を通してペリアンが体験した日本の伝統文化、日本的な素材との出会いによって結実した「選擇、傳統、創造」展を紹介します。
- 第3章：戦後—日本との再会 1949-1960  
 エールフランスの日本営業所(東京、大阪)の設計や、丹下健三による旧東京都庁舎の内装など、戦後期の日本での活動に焦点をあて、ペリアンと日本文化との共鳴を考察します。
- 第4章：フランス—暮らしの中の日本 1952-1993  
 日本での知識や経験をもとに、フランスをはじめ海外で日本文化を発信したペリアンのさまざまな活動を紹介합니다。
- 第5章：生活と芸術—ペリアンからのメッセージ 1993-1999  
 90歳を過ぎた晩年も精力的に活動を展開したペリアン。彼女の功績によって日本文化が西洋文化とどのように結びついたかなどを検証します。



シャルロット・ペリアン「選擇 傳統 創造」展、高島屋会場、東京 1941年  
 Photo: Francis Haar



シャルロット・ペリアン ユネスコ庭園内《茶室》入口、パリ、1993年  
 Photo Pernette Perriand- Barsac, Jacques Barsac

広島市現代美術館(学芸担当:角、齋藤 広報担当:後藤、鈴木)

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園1-1

TEL/ 082-264-1121・082-264-1146(直通)

FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp

Copyrights Archives Charlotte Perriand - ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2011



**Hiroshima MOCA**  
 Hiroshima City Museum of Contemporary Art